

# 家庭科学習指導案

平成15年9月9日～12月9日

藤岡市立美土里小学校 5年3組 28名

指導者 丸山晶子

1 題材名 家族のために作って楽しく、作っておいしく

2 考察

(1) 学習指導要領における位置

本題材は、小学校学習指導要領解説「家庭」における、次の目標及び内容に基づき題材構成したものである。

目標

- (2) 製作や調理など日常生活に必要な基礎的な技能を身に付け、自分の身の回りの生活に活用できるようにする。
- (3) 自分と家族などのかかわりを考えて実践する喜びを味わい、家庭生活をよりよくしようとする態度を育てる。

内容

- (1) 家庭生活に関心をもって、家庭の仕事や家族との触れ合いができるようにする。
  - エ 家族との触れ合いや団らんを楽しくする工夫をすること。
- (2) 衣服に関心をもって、日常着を着たり手入れしたりすることができるようにする。
  - ア 衣服の働きが分かり、日常着の着方を考えること。
- (3) 生活に役立つ物を製作して活用できるようにする。
  - ア 布を用いて製作する物を考え、製作計画を立てること。
  - イ 形などを工夫し、手縫いにより目的に応じた簡単な縫い方を考えて製作ができること。また、ミシンを用いて直線縫いをすること。
  - ウ 製作に必要な用具の安全な取扱いができること。
- (4) 日常の食事に関心をもって、調和のよい食事のとり方が分かるようにする。
  - ア 食事の栄養的な特徴を知り、食品を組み合わせてとる必要があることが分かること。
- (5) 日常よく使用される食品を用いて簡単な調理ができるようにする。
  - ア 調理に必要な材料の分量が分かり、手順を考えて調理計画を立てること。
  - イ 材料の洗い方、切り方、味の付け方及び後片付けの仕方が分かること。
  - エ 米飯及びみそ汁の調理ができること。
  - オ 盛り付けや配膳を考え、楽しく食事ができること。
  - カ 調理に必要な用具や食器の安全で衛生的な取扱い及びこんろの安全な取扱いができること。

(2) 児童の実態

【家庭生活への関心・意欲・態度】

1学期の学習を通してほとんどの児童は“作る楽しさ”を味わうことができ、家庭科への関心を高めている。また、1学期に、家庭の仕事を工夫して手伝った時に書いてもらった家族からのメッセージが励みとなり、「家族に喜ばれたい、楽をしてもらいたい」という気持ちを持って決まった仕事や気付いたことを進んで実践している児童もいる(12人)。一方で、「家族に言われるので仕方なく」家庭の仕事を手伝うという児童も少なくない(9人)。

家庭での過ごし方については、夕食を食べたり（18人）テレビを見たり（15人）する時に家族がそろふことが多く、その時が「楽しい」と感じている児童は25人にもものぼる。しかし、一緒に過ごす時間の長さについては不満を持っている児童もあり（13人）「もっと家族がそろふ時間が欲しい」という願いを抱いている。

#### 【生活を創意工夫する能力】

家族と一緒に過ごす時間の長さに満足している児童の中には、時間的なことよりも質的なことに重点を置いている子もいる。家族が集まるのは夕食の時くらいだから、できることをみんなでそろってやろうと、食事の支度や後片付けも一緒にしているということだ。しかし、このような例は稀で、時間的なことに満足している児童も不満を持っている児童も、全体的には受け身である。家族の生活時間が合わないという現実の中で、その解決を目指して、家庭生活をよりよくするために自分なりに考え、実行するまでには至っていない。

#### 【生活の技能】

これまでに、自分にできる仕事の実行計画や家族のための小物作り・野菜サラダ作りの実行計画を立て、学校での実習を経て家庭で実践してきている。計画立案時には、家族の仕事を観察したり家族の希望を聞いたりして分かったことを生かすようにしてきたが、十分な観察や聞き取りができた児童は比較的自信を持って実習に取り組むことができていた。2学期の炊飯とみそ汁作りはほとんどの児童にとって初めての体験なので、家庭での観察や聞き取りをしっかりと行かせた上で、授業を通して技能を身に付けさせたい。

製作に関しては、針と糸を使った小物作りを経験し、なみ縫いなど縫い方の技能はよく身に付いている。玉結びや玉止めの仕方には不安を持っている児童が多いので、ミシン縫いと併せて練習の機会を設ける必要がある。

#### 【家庭生活についての知識・理解】

家庭の仕事調べを通して、家庭には様々な仕事があり、そのほとんどを大人がしていることを意識することはできている。そして、自分にできることを家庭で実践して家族からほめてもらい、満足感や達成感を持ったことから、自分も家族の一員として仕事を分担する必要があることを理解している。

しかし、前述の通り、言われてから手伝う児童や家庭生活への不満を抱く児童もいるので、生活の技能とそれを支える知識を身に付けて、自分から進んで行動するための基盤を作る必要がある。

### (3) 題材観

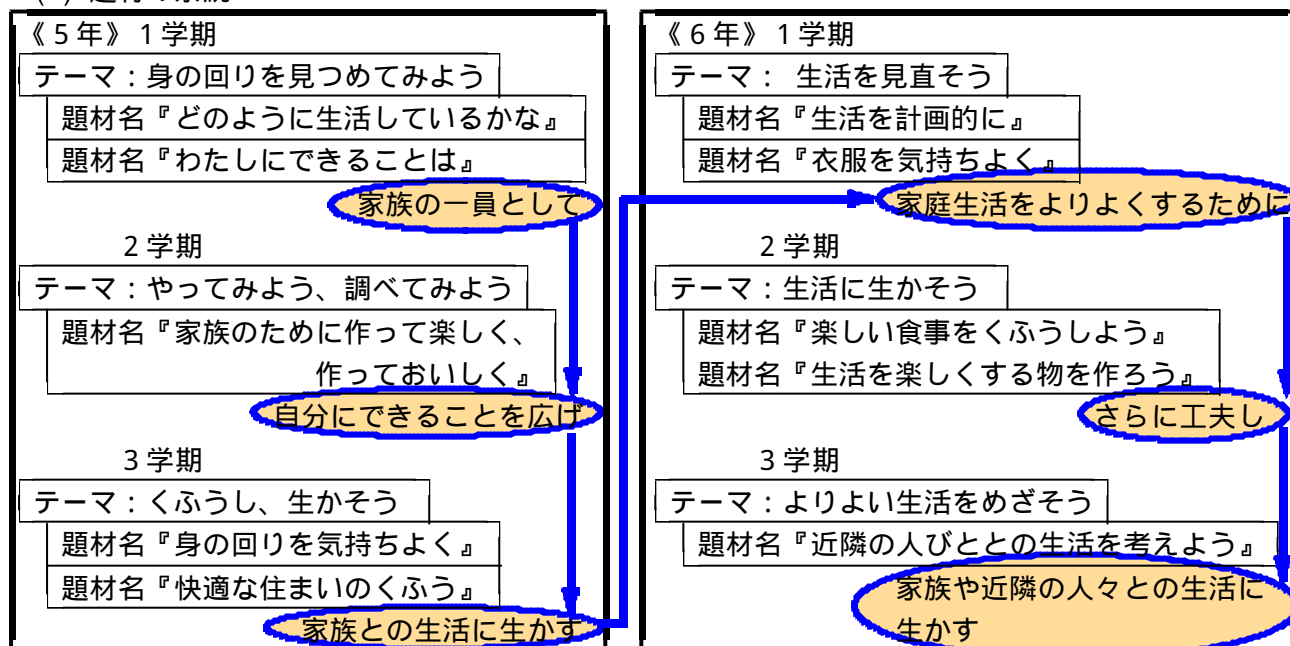
1学期は「身の回りを見つめてみよう」というテーマの下、一日の生活を振り返ったり家の仕事にチャレンジしたりして、家庭の仕事への関心を高め、家庭生活に協力するために必要な基礎的な知識や技能を身に付けられるように指導してきた。

2学期は「やってみよう、調べてみよう」というテーマの下、さらに家庭生活に一步深く目を向けて追究したりチャレンジしたりして知識や技能を習得し、生活に生かせるようにすることを目指した題材配列になっている。家庭生活に一步深い目を向けさせるためには、視点を明らかにした観察行動が欠かせない。「作って楽しく使おう」の題材ではあまりにも身近にある布でできた物に目を向けさせ、「作っておいしく食べよう」の題材では日本の伝統的な日常食であるご飯とみそ汁に目を向けさせている。これまでの学習経験から、ほとんどの児童は「縫って物を作る」ことや「食べるものを作る」ことに高い関心を持っている。したがって、身近な布や日常食に目が向けば、自分も作りたいという気持ちを持つであろうことは大いに予想される。関心を、追究しようとする意欲につなげるためには、今後の自分自身のためというだけでなく、家族とのよりよい生活のためという観点を持た

せることがとても重要であると考え。なぜなら、児童は家族との触れ合いを求めているからである。現実には、その思いを自ら進んで行動に移すまでには至っていないが、家庭科の学習を通して自分ができることを広げ、家庭で実践することで、自分からも家族との触れ合いを深めることができることを実感させたい。

そこで、2学期は「家族のために」という児童の思いを実現するために、家族との食生活をより楽しくするために作るという観点から、2つの題材の関連性を強め、新たに「家族のために作って楽しく、作っておいしく」という題材を設定した。

#### (4) 題材の系統



### 3 題材の目標

家庭生活をよりよくするための課題を持ち、簡単な小物作りや調理を通して知識や技能を身に付けることができるようにし、課題の解決に生かすことができるようにする。

### 4 題材の評価規準

小題材《作って楽しく使おう》		
	B規準	A規準
【関】	布でできた物に関心を持ち、家族の思いを取り入れて製作した物を家庭で活用してもらうために、家族に働きかけようとする。	布でできたものに関心を持ち、家族の思いを取り入れて製作した物を家庭で活用してもらうために、家族に積極的に働きかけようとする。
【創】	家庭生活に役立つ物を考えて製作計画を立て、目的に応じた縫い方を工夫している。	家庭生活に役立つ物を考えて製作計画を立て、丈夫さ、美しさを考えながら、目的に応じた縫い方を工夫している。
【技】	ミシンを正しく安全に使い、直線縫いをすることができる。	ミシンを正しく安全に使い、ていねいに直線縫いをすることができる。
【知】	ミシン縫いの特徴やミシンの安全な使い方が分かる。	手縫いと比較しながらミシン縫いの特徴をとらえ、ミシンの安全な使い方が分かる。

小題材《作っておいしく食べよう》		
【関】	日常の食生活に関心を持ち、調和のとれた食事を家族と楽しくしようとする。	日常の食生活に関心を持ち、食品の栄養的な特徴を考えて、調和のとれた食事を家族と楽しくしようとする。
【創】	ご飯とみそ汁を作る手順や楽しく食事をするための工夫を考えて、調理計画を立てている。	ご飯とみそ汁を作る手順や楽しく食事をするための工夫を考えて、実習全体を見通した調理計画を立てている。
【技】	米とみその特徴を理解し、ご飯とみそ汁を作ることができる。	米とみその特徴を理解し、それぞれの特徴を生かしてご飯とみそ汁を作ることができる。
【知】	食品の栄養的な特徴と、その特徴を生かした調和のよい食事をとることの必要性が分かる。	食品の栄養的な特徴と、その特徴を生かした調和のよい食事をとることの必要性、及び調和のとれた食事のとり方が分かる。

## 5 指導方針

生活上の問題点に気付かせ意識化させるために、各活動の導入段階において「家族ウォッチング」という観察行動を取り入れる。

「家族ウォッチング」を通して気付いた生活上の問題点を主体的に解決しようとする姿勢を身に付けさせるために、“家族のために”という家族への思いや家族との関わりを重視して題材を構成する。

学校での実習・製作や家庭での実践に対する意欲と自信を高めるために、計画立案時と実践後に「家族ふれ合い便」というワークシートを取り入れ、児童の考えや気持ちと家族の思いや励ましの言葉などをやり取りしてコミュニケーションを図れるようにする。

「家族ウォッチング」を通して気付いたことなどを「家族ふれ合い便」に記録させ、それをもとに学習活動の中で意見交換させることで、生活上の問題点への考えを深め合えるようにする。

家庭での実践計画立案では、児童の家庭環境を考慮し、各自がオリジナルの計画を工夫することの大切さを伝えつつ、友達の工夫のよさも可能な範囲で取り入れていくように促す。

学校での実習・製作や家庭での実践後に成果と課題について話し合わせることで、体験を通して味わった大変さや喜びを共有し、学習内容を今後の生活に役立てようとする意欲につなげたい。

## 6 指導と評価の計画（資料編：「題材構想」参照）

## 7 本時の学習（全22時間）

学習指導案

題材名 家族のために作って楽しく、作っておいしく ( 1 / 2 2 時間 )					
ねらい	2 学期の家庭科の学習について、家庭生活をよりよくするために自分にできることを広げていこうとする意欲を高めることができる。				
準備	教師	実態調査の結果 家族ふれ合い便 1			
	児童	1 学期のワークシート			
過程	学習活動	時間	支援及び留意点	評価項目と方法	
				B 規準	A 規準
つかむ	1 . 1 学期の学習内容と家庭での実践を振り返る。	15	<p>仕事をする中で家族の触れ合いが持てた経験を、1 学期のワークシートに書かれた家族からのコメントをもとに振り返らせたい。</p> <p>家族からのコメントを読んだ時のうれしい気持ち、やる気が起きたことなどを思い起こさせるようにする。</p>	2 学期の学習内容に関心を持ち、家庭生活に協力しようとする意欲を持っている。	2 学期の学習内容で、特に関心を持ったところを家庭生活と結びつけながら、協力しようとする意欲を持っている。
	2 . 2 学期の家庭科の学習について確認する。	15	<p>実態調査の結果から、家族のためにできることをやりたいという思いがあることを取り上げ、その思いを生かすために、家庭科の時間に必要な知識と “ 作る技能 ” を身に付けて家庭生活に協力できるようにすることを伝える。</p>		
	3 . 家族ふれ合い便と、その活用の仕方について知る。	10	<p>家族とのコミュニケーション手段として取り入れる家族ふれ合い便の説明をする。</p>		
	4 . 次時の学習内容を知る。	5	<p>家庭にある、食生活に関わる布製品を見つけ、家族がどのように使っているかを観察して家族ふれ合い便 1 の [ 観察欄 ] に記入してくるように伝える。</p>		
				《 関 》【 発言 】	

学習指導案

題材名		家族のために作って楽しく、作っておいしく(2・3/22時間)				
ねらい	食生活に関わる布製品をもとに布の種類とその特徴、ミシン縫いの特徴を調べ、食生活を楽しくする小物について関心を持つことができる。					
	教師	食生活に関わる布製品サンプル(織物・編み物・フェルト、手縫い・ミシン縫い) 紙				
準備	児童	家族ふれ合い便 1 食生活に関わる布製品				
過程	学習活動		時間	支援及び留意点	評価項目と方法	
					B 規準	A 規準
つかむ	1. 本時のめあてをつかむ。		3	家庭にある食生活に関わる布製品について、観察して分かったことや気付いたこと、家族に聞いてわかったことを紹介し合うことで、食生活に関わる布製品への関心を高めたい。 製作物を決めるヒントにつながるように、持ち寄った物やサンプルを買い物用・料理用・食卓用・整理用に分けて板書する。	食生活に関わる布製品をいくつか調べ、発表している。 《関》【家族ふれ合い便 1 : 観察欄、発表】	食生活に関わる布製品を複数調べ、発表している。
	2. 家族ふれ合い便 1 の観察欄をもとに、持ち寄った物やサンプルについて、名称や用途、使用頻度等を発表し合う。		22			
追究する	3. 布製品を見たり触れたりして、布の特徴について話し合う。		20	サンプルとして織物、編み物、フェルトの布製品、また、手縫いの物、ミシン縫いの物を用意しておく。 紙との比較で布の特徴をつかませるとともに、布の種類別の特徴をつかませる。	布の種類や性質、ミシン縫いの特徴を理解してまとめている。 《知》【家族ふれ合い便 1 : ワーク欄】	布の種類や性質、ミシン縫いの特徴を、紙との違いや手縫いとの違いから理解してまとめている。
	4. ミシン縫いの特徴を調べる。		20	手縫いの物と比較させ、ミシン縫いのよさとして、縫い目の整い、丈夫さ、などに気付かせたい。		
	5. 持ち寄った物やサンプルで、班毎にテーブルコーディネートをする。		20	班毎に、家で観察して気付いたことや使用頻度などを話し合わせながらテーブルコーディネートに取り組みせ、食生活を楽しくする小物への関心を高めたい。		
まとめる	6. 自分の家にあるといいなと思う物を考え、家族ふれ合い便 1 の自分の気持ち欄に記入する。		5	テーブルコーディネートを参考にさせて、家族に呼びかけるような形で記入させる。	食生活を楽しくする小物に関心を持ち、自分の家にあるといいと思う物を考えている。 《関》【家族ふれ合い便 1 : 自分の気持ち欄】	食生活を楽しくする小物に関心を持ち、家庭生活を振り返って、あるといいと思う物を考えている。

学習指導案

題材名		家族のために作って楽しく、作っておいしく(4/22時間)			
ねらい	食生活を楽しむ小物作りの計画を、縫う方法などを工夫して立てることができる。				
準備	教師	家族ふれ合い便 2 食生活に関わる布製品サンプル 製作キット・説明書 製作手順例			
	児童	家族ふれ合い便 1			
過程	学習活動		時間	支援及び留意点	評価項目と方法
					B規準 A規準
つかむ	1. 本時のめあてをつかむ。		2	家族ふれ合い便 1 に記入してもらった家族のアイデアや願いをもとに、食生活を楽しむ小物作りの計画を立てることを伝える。	
計画を立てる	2. 作る物を発表する。  3. 食生活を楽しむ小物作りの計画を立てる。 <u>買い物コース</u> 〔ナップザック、手提げ袋等〕 <u>料理コース</u> 〔エプロン、なべつかみ等〕 <u>食卓コース</u> 〔ランチョンマット、コースター等〕 <u>整理コース</u> 〔ウォールポケット等〕		10  28	家族からどんなメッセージをもらって何を作ることにしたかを聞き合うことで、製作意欲を高めたい。  完成予想図、家の中で活用されている想像図を書かせることで、製作意欲をさらに高めたい。  家族ふれ合い便 1 の自分の気持ち欄をもとに、児童の希望する物を把握し、あらかじめ製作キットを用意し、その説明書を参考に計画を立てられるようにする。製作キットのない物は、製作手順例を用意しておき、参考にさせる。  児童が作りたい物を4つのコースにまとめ、同じコースの友達と相談しながら手順を確かめ合えるようにする。  ミシン縫いの特徴に触れ、直線縫いも取り入れて、縫い方を工夫するように促す。	製作の順序、縫い方、飾りなどを工夫して計画を立てている。  《創》【家族ふれ合い便 2 : 計画表】
まとめる	4. 家の中でどのように使ってもらいたいかを書いた想像図を見合う。		5	計画表に書いた想像図を見合わせることによって、小物作りを頑張ろうとする気持ちを共有化させたい。	

学習指導案

題材名		家族のために作って楽しく、作っておいしく(5・6/22時間)			
ねらい	ミシンの操作に関心を持ち、正しく安全に取り扱うことができる。				
準備	教師	家族ふれ合い便 3 ミシン針 ミシン ミシン糸 ポピン			
	児童	練習布 糸切りばさみ			
過程	学習活動	時間	支援及び留意点	評価項目と方法	
				B規準	A規準
つかむ	1. 本時のめあてをつかむ。	5			
追究する	2. ミシンの持ち運び、出し方、動かし方、しまい方を知って、練習する。	15	<p>ミシンの安全な取り扱い方を一つずつ示範し、それぞれについて一人一人が練習できるように時間を配慮する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミシンは左右の鍵がきちんとかかっていることを確認した上で友達と2人で持ち運ぶようにする。</li> <li>・はずしたカバーの置き場所を決め、作業に支障を来さないようにする。</li> <li>・座る位置や姿勢に気を付けて、ミシンの正面に座るようにする</li> <li>・コントローラに正しく足を乗せゆっくり踏み込むようにする。</li> </ul>	<p>ミシンの操作に関心を持ち、進んで活動しようとしている。</p> <p>《関》</p> <p>【実習】</p> <p>手順に従い、ミシンの出し入れやコントローラを使った動かし方ができる。</p> <p>《技》</p>	<p>ミシンの操作に関心を持ち、進んで活動したり友達に協力しようとしている。</p> <p>手順に従い、安全に気が付ながら丁寧に、ミシンの出し入れやコントローラを使った動かし方ができる。</p> <p>《技》</p>
	3. ミシン針のつけ方を知って、つけはずしを練習する。	10	<p>ミシン針を観察し、平らな面と丸みのある面とがあることに気付かせる。</p> <p>あらかじめミシン針をつけておき、とめねじをゆるめて針を抜き取らせて針の平らな面がミ</p>	<p>ミシン針の正しい付けはずしができる。</p> <p>【実習】</p> <p>ミシン針の正しい付けはずしができ、友達に協力している。</p>	<p>ミシン針の正しい付けはずしができ、友達に協力している。</p>



<p>4 . ミシンでから縫いをして、基本的操作を知る。</p>	<p>15</p>	<p>シンの針棒の溝に合うように取り付けられていたことに気付かせる。</p> <p>針棒を高い位置に上げてから、ピンに当たるまで針を差し込んでとめねじをしめ、はずみ車を回して針穴にまっすぐ入るか確かめさせる。</p> <p>押さえの上げ下ろし、速度や針目の調節、針の動きと布の運びの様子、両手の使い方などのミシンの基本的操作を、練習布の</p>	<p>《知・技》【実習、家族触れ 合い便 3 : チェック表】</p> <p>基本的操作がわかり、スムーズに縫いをすることが</p>
<p>5 . 下系の巻き方とセットの仕方を知って、練習する。</p>	<p>15</p>	<p>から縫いを通して理解させたい。</p> <p>ボビンに水平に巻き取れない場合は、指で高さの調節をしないとよいことを知らせる。</p> <p>一人一人が巻き方の練習ができるように、ミシン1台に2個のボビンを用意し、ボビンからボビンへと巻き取らせる。</p>	<p>から縫いをすることができる。</p> <p>《知・技》【実習、家族ふききれいに下糸を巻き、3 : チェック表】</p> <p>ボビンにセットすることができる。</p>
<p>6 . 上系のかけ方と下系の出し方を知り、練習する。</p>	<p>15</p>	<p>ミシン本体に書いてある指示をもとに上糸をかける順序やかけ方を説明し、一緒にかけさせる。</p> <p>友達と協力しながら、上糸のかけ方を一人で何回もやって覚えられるようにする。</p> <p>下糸が一度で上がってこない時は繰り返し針をおろし、それでも出て来ない時は針の付け方やボビンのセットの仕方を確認</p>	<p>下糸を巻き、セットすることができる。</p> <p>上糸を正しくかけられ、丁寧に取り出した下糸とそろえて縫う準備をすることができる。</p> <p>《知・技》【実習、家族ふれ、丁寧に 3 : チェック表】</p> <p>上糸を正しくかけられ、下糸を取り出すことができる。</p>

			<p>するよう促す。</p>	<p>《知・技》【実習、家族ふれ合い便 3：チェック表】</p>
<p>ま と め る</p>	<p>7. ミシンで1本直線縫いをする。</p>	<p>15</p>	<p>糸かけをして練習布をミシンで縫い、縫い目ができる実感を味わったり、縫いの丈夫さを味わうように促す。</p>	

学習指導案

題材名	家族のために作って楽しく、作っておいしく（7 / 2 2 時間）				
ねらい	縫い始めと縫い終わりの糸の始末や角の曲がり方がわかり、順序よく直線縫いができる。				
準備	教師	ミシン ミシン針 ミシン糸 ボビン			
	児童	家族ふれ合い便 2・3 練習布 糸切りばさみ			
過程	学習活動	時間	支援及び留意点		
			評価項目と方法		
			B 規準	A 規準	
追究する	1. 本時のめあてをつかむ。	2			
	2. 返し縫いを取り入れて、直線縫いを練習する。	23	前時に直線縫いの試しをした練習布をもとに、縫い始めと縫い終わりの糸の始末をしていないと、糸や布を引っ張るとほどけやすいことに気付かせる 返し縫いをした直線縫いの標本を提示し、返し縫いの効果に気付かせる。 返し縫いのレバーの使い方を示範し、縫い始めと縫い終わりに返し縫いを取り入れた直線縫いを練習させる。 縫い始めと縫い終わりがほつれないように、糸の端を結ぶ方法もあることを示範する。	返し縫いの仕方が分かり、順序よく直線縫いができる。 《知・技》【練習布、家族ふれ合い便 3 : チェック表】	返し縫いや糸端の始末の仕方が分かり、順序よく丁寧に直線縫いができる。
	3. 縫う方向を変えて縫う練習をする。	15	角の少し手前で止め、手回して順序通りに縫うことを示範しながら伝える。	角の曲がり方が分かり、順序よく縫う方向を変えて縫うことができる。 《知・技》【練習布、家族ふれ合い便 3 : チェック表】	角の曲がり方が分かり、順序よく縫う方向を変えて縫うことができる。
見直す	4. 小物作りにおける縫い方を見直す。	5	チェック表をもとに、ミシンの取り扱いと操作について振り返り、小物作りにミシン縫いの箇所を増やすことができそうかどうかを考えさせて、計画の見直しを図る。 小物作り前の意気込みや不安感などを記入し、2の計画表や3のミシンチェック表とともに家族に見てもらい、励ましてもらうようにする。また、それを受けての自分の感想を3の自分の気持ち欄に記入するよう伝える	ミシン縫いの部分を増やせるかどうかを考え、計画を見直している。 《創》【家族ふれ合い便 2 : 計画表】 《関》【家族ふれ合い便 3 : 自分の気持ち欄】	使い方に合った縫い方を考え、手縫いとミシン縫いのよさを生かせるように計画を見直している。
	5. ミシンを使った小物作り前の気持ちを家族ふれ合い便3に記入する。				

学習指導案

題材名	家族のために作って楽しく、作っておいしく(8・9・10 / 22時間)				
ねらい	食生活を楽しむ小物を、計画に従って作ることができる。				
準備	教師	食生活に関わる布製品サンプル ミシン 家族ふれ合い便 4 デジタカメラ フロップディスク アイロン アイロン台 布端の折り方・縫い方標本			
	児童	家族ふれ合い便 2、3 裁縫用具 製作キットなど必要な材料			
過程	学習活動	時間	支援及び留意点	評価項目と方法	
				B規準	A規準
つかむ	1. 本時のめあてをつかむ。	5	コース別のグループを作り、友達と協力しながら作業が進められるように促す。 家族からの励ましの言葉が間に合わなかったり、忘れてしまったりした児童には、一人ずつ声をかけたい。		
	2. 家族ふれ合い便 3の家族からの励ましの言葉を確認する。  3. 計画表で、自分が作る物の製作手順を確認する。	15	布の表・裏を確かめた上で、裏に必要な印をつけておくと、切る時や縫う時に作業がしやすいことを知らせる。 紙ののりしろのように、布で製作するときには出来上がり線の周りにぬいしろが必要なことを押さえておく。 キットのないグループへの支援(型を取る、布を裁つ)を先に行うために、キットを使うグループには、家族ふれ合い便2の計画表に従って進めているよう指示を出しておく。		
やってみる	3. 自分の立てた計画に従って製作する。 布を裁ったり、必要な印を付けたりする。 必要に応じてアイロン	20  100	各自用意したミシン系とボビンで、下糸の準備をさせておく。	布を裁ったり、必要な印	丁寧に布を裁ったり必要な印を

	<p>で折り目を付けたり、まち針でとめたりして縫う。</p> <p>縫い残しはないか、他に工夫できるところはないかを考え、仕上げをする。</p>	20	<p>折り目を付ける時は、始めに指で折り目を付け、アイロンで仕上げるとよいことを知らせる。</p> <p>安全なまち針のとめ方や縫う位置については、教科書や標本を参考にするように促す。</p> <p>返し縫いをして丈夫にしたり、色糸を使ってミシン縫いや手縫いで簡単な模様を作るなどの工夫を助言する。</p>	<p>を付けられ</p> <p>《技》【実習、作品】</p> <p>計画に従って丁寧に縫い、製作することができる。</p> <p>《技》【実習、作品】</p>	<p>付けることができ、友達に協力している。</p> <p>丈夫さ、美しさ、使いやすさを考えながら、計画に沿って丁寧に製作することができる。</p>
<p>ま と め る</p>	<p>4 . 完成後の感想を家族ふれ合い便 4 に書き、完成作品をデジカメで撮影し合う。</p> <p>5 . 家庭での試用について、話を聞く。</p>	15	<p>初めてのミシン縫いで大変だったことや楽しかったこと、自分が特に力を入れて頑張ったところ、家族にどんなふうに使ってもらいたいかなどを、工夫して感想を書かせるようにする。</p> <p>5 家族ふれ合い便 4 に、使い心地について家族に感想を書いてもらうようにする。また、作品を家族が使っている様子を観察し、気付いたことを記入するように伝える。</p>	<p>特に頑張ったところなどの感想を、自分なりに工夫して書いている。</p> <p>《関》【家族ふれ合い便 4 : 自分の気持ち欄】</p>	<p>特に頑張ったところや、家族にどんなふうに使ってもらえるとうれしいかなどの感想を、自分なりに工夫して書いている。</p>

学習指導案

題材名 家族のために作って楽しく、作っておいしく(11/22時間)					
ねらい	自分が作った物が家族の食生活に役立つ喜びを感じ、今後の活用に向けて意欲を高めることができる。				
準備	教師	家族ふれ合い便 5			
	児童	家族ふれ合い便 1～4			
過程	学習活動	時間	支援及び留意点	評価項目と方法	
				B規準	A規準
つかむ	1. 本時の学習内容を知る。	5	本時の学習は、これまでの学習「作って楽しく」のまとめであり、これからの学習「作っておいしく」の土台になることを伝える。		
追究し、まとめる	2. 家族ふれ合い便 4をもとに、使う様子を観察して気付いたことや、自分の作品を使った家族の感想を発表する。	20	試用期間中に観察して気付いたことと、家族からの感想を分かりやすく発表するように促す。 友達の発表をよく聞かせ、自分の家と友達の家との似ている点や異なる点に気づき、自分の今後の生活の参考とさせたい。 発表内容を、例えば使いやすさ、縫い方の丈夫さ・工夫、丁寧さなどの項目に沿って黒板にまとめていくようにし、家族がいかに喜んでくれているかを感じさせい。	家族が使う様子を観察し、気付いたことを記録してある。 《関》【家族ふれ合い便 4 : 観察欄】	家族が使う様子を観察し、よい点や改良点を含めて、気付いたことを記録してある。
	3. 自分で作った物が、生活の中で役立っていることについて考える。	10	発表内容の「誉め言葉」や「励ましの言葉」に着目させ、完成に至るまでの努力についても認め、自分の努力が報われた喜びを十分に味わえるようにしたい。	自分が作った物が家族に役立つ喜びを感じるとともに、継続して活用してもら	自分の作った物が家族に役立つ喜びを感じるとともに、継続して活用してもら
	4. 自分で作った物を、今後の生活の中でさらに役立たせるにはどうしたらよいか考える。	10	発表内容の「改良点」や、これまでの家族ふれ合い便の家族からのコメント欄にも着目させて、さらに家族に役立つためにできることを考えさせたい。 さらに役立つために、食事を用意する方向に導き、家の食事の組み合わせなどを調べて家族ふれ合い便 5の観察欄に記入してくるよう伝える。	自分の作った物が家族に役立つ喜びを感じるとともに、継続して活用してもらえようように自分なりの工夫を考えている。 《関》【家族ふれ合い便 4 : 自分の気持ち欄】	自分の作った物が家族に役立つ喜びを感じるとともに、継続して活用してもらえようための改良点を考え、次のもの作りへの意欲を持っている。

学習指導案

題材名	家族のために作って楽しく、作っておいしく(12・13/22時間)				
ねらい	食品の栄養的な特徴を知り、食品を組み合わせてとる必要性がわかる。				
準備	教師	献立表 家族ふれ合い便 6 米 ご飯			
	児童	家族ふれ合い便 5			
過程	学習活動	時間	支援及び留意点	評価項目と方法	
				B規準	A規準
つかむ	1. 本時のめあてをつかむ。 2. 家族ふれ合い便 5の観察欄をもとに、食事の組み合わせについて調べたことを発表する。	5 40	様々な食品を食べていることが視覚的に分かるようにするため、調べてきた食品をカードに書かせ、黒板に貼れるようにする。 食事が主食・主菜・副菜・汁物などの組み合わせから成り立っていることに気付くように分類して貼っていく。	日常の食事に関心を持つて調べ、気付いたことを記録している。 《関》【家族ふれ合い便 5	日常の食事に関心を持って調べ、よい点や問題点に気付いて記録している。 :観察欄】
追究する	3. なぜ食べるのか、なぜ組み合わせることが大切なのかを考える。  4. ご飯の炊き方について観察するポイントを聞く。	35  10	活動する、病気を防ぐ、成長するためのために食べるということと関連付けて、体内での主な働きにより、食品が3つのグループに分けられることを押さえておく。 食品の栄養的特徴を確認するために、わが家のある日の夕ご飯をグループ分けさせる。 給食の献立表を見て、食品が3つのグループに分けられていること、栄養バランスが考えられた組み合わせになっていることを確認させる。 食事調べの結果から、ご飯とみそ汁の組み合わせが多く、それが様々なおかずと合うことからずっと食べられてきたことに気付かせたい。さらに、総合的な学習で自分たちが作っている米を使って、おいしいご飯とみそ汁を作ろうとする意欲を高めたい。 米とご飯を見比べさせてその変化に関心を持たせ、家で観察して気付いたことを家族ふれ合い便 6に記入するよう伝える。	食品は、栄養的特徴と体内での働きにより、仲間分けできることが分かる。 《知》【家族ふれ合い便 5 :観察欄】 食品を組み合わせる必要性が分かる。 《知》【家族ふれ合い便 5: ワーク欄、発言】 米とご飯の違いから、その変化に関心を持っている。 《関》【発言】	栄養的特徴と体内での働きにより、食品を仲間分けすることができる。 食品を組み合わせる必要性が分かり、ご飯とみそ汁の組み合わせのよさに気付く。 米とご飯の違いから、その変化について必要な条件を考えている。

学習指導案

<b>題材名</b> 家族のために作って楽しく、作っておいしく(14/22時間)					
ねらい	おいしいご飯を炊くための課題を試す計画を立てることができる。				
準備	教師	炊飯作業の流れ・ガスコンロの火加減を示した図			
	児童	家族ふれ合い便 6			
過程	学習活動	時間	支援及び留意点	評価項目と方法	
				B規準	A規準
つかむ	1. 本時のめあてをつかむ。	3			
	2. 家族ふれ合い便 6の観察欄をもとに、ご飯の炊き方について調べてきたことを、米の洗い方・米と水の分量・浸水時間のそれぞれについて発表する。	17	観察して気付いたことや教えてもらったことなどを発表させて板書し、同様のことや自分の家ならではの方法や工夫があることに気付かせたい。	ご飯の炊き方について、与えられた視点に沿って見聞きし、分かったことを記録している。	ご飯の炊き方について、与えられた視点に沿って見聞きし、分かったことや気付いたことを詳しく記録している。
				《関》【家族ふれ合い便 6 欄】 ご飯の炊き方について調べたことを友達のとを友達の発表内容と発表と照らし合わせて、類似点や相違点がある。	
追究す	3. おいしいご飯を炊くための課題を決める。	5	おいしいご飯を炊くために特に自分が試したいことを、米の洗い方・米と水の分量・浸水時		
				《関》【挙手・発言】	



る

4. 課題を試すための計画を立て、家族ふれ合い便6に記入する。

米の洗い方(例)

水が濁らなくなるまで繰り返し洗う場合と、2・3回しか洗わない場合

しっかり洗う場合と、やさしく洗う場合

米と水の分量(例)

水の分量を、米の重さと同じにした場合と、1.5倍にした場合

浸水時間(例)

浸水10分の場合と浸水30分の場合

20

間から選んで課題とさせて、課題別グループを作る。

ご飯を炊くための作業の流れと火加減の調節を図示しておき、確かめるようにする。

課題以外のことについては共通の条件で実験を行うようにする。

(課題以外の条件)

米の洗い方G	米と水の分量G	浸水時間G
	水を換えて3～4回洗う	水を換えて3～4回洗う
米の重さの1.5倍の水		米の重さの1.5倍の水
浸水30分	浸水30分	

各グループを2つに分けて、対照実験ができるようにし、自分たちの課題を試すための計画を立てさせる。

米の重さと体積の関係には幅があるので、炊飯実験ではより正確なものとなる重量で計測するようにする。

おいしいご飯を炊くための課題を試す計画を考えている。

おいしいご飯を炊くための課題を試す計画を、対照実験の仕方を工夫して考えている。

《創》【発言】

学習指導案

<b>題材名</b> 家族のために作って楽しく、作っておいしく(15・16/22時間)				
ねらい	課題別に炊飯実験をして、おいしいご飯を炊くために気を付けることが分かる。			
準備	教師	ストップウォッチ ガラス鍋 しゃもじ はかり ざる ボール 計量カップ		
	児童	家族ふれ合い便 6 米80g <sup>2</sup> エプロン 三角巾 ふきん		
過程	学習活動	時間	支援及び留意点	評価項目と方法
				B 規準 A 規準
つかむ	1. 本時のめあてをつかむ。	3		
	2. 自分たちのグループの課題と炊飯実験計画を確認する。	7	課題追求の仕方や役割分担、用具について確かめておくようにする。	
追究する	3. 計画に従って炊飯実験を行う。	60	米に吸水させている間に、課題毎の対照実験結果について、予想したことを話し合わせる。 実験過程で、水の量や泡の出方、米粒の変化など、気付いたことを記録しておくように促す。	ご飯の炊き方に関心を持ち、協力してグループの課題について調べようとしている。  《関》【炊飯実験、発言、家族ふれ合い便 6 : ワーク欄】
	4. 自分のグループのご飯を食べ比べ、違いについて考える。		自分のグループの対照実験結果を比べ、米粒の大きさや味、やわらかさの違いなど気付いたことを話し合い、まとめさせる。	
まとめる	5. グループ毎に実験結果を発表し、おいしいご飯を炊くためのポイントをまとめる。	15	グループ毎の実験結果を聞き合うことで、ご飯の炊き方のポイントをつかませ、ご飯とみそ汁の2本立て調理実習に生かせるようにする。	おいしいご飯の炊き方が分かる。  《知》【家族ふれ合い便 6 : ワーク欄】
	6. みそ汁の作り方について観察のポイントを聞く。	5	ご飯との組み合わせがよく似合うみそ汁について、そのおいしさのひけつをだしのとり方・みその入れ方・具の切り方や入れ方の観点で観察し、家族ふれ合い便 7 に記入してくるよう伝える。	

学習指導案

<b>題材名</b> 家族のために作って楽しく、作っておいしく（17 / 22時間）					
ねらい	観察して分かったことをもとに、おいしいみそ汁の作り方をまとめることができる。				
準備	教師	包丁 まな板 野菜 ふきん			
	児童	家族ふれ合い便 7			
過程	学習活動	時間	支援及び留意点	評価項目と方法	
				B 規準	A 規準
つかむ	1. 本時のめあてをつかむ。	2	<p>だしのとり方、みその入れ方、具の切り方や入れ方のそれぞれについて発表させ、共通点や相違点に気付きやすいように板書していく。</p> <p>野菜の切り方については、発表内容をもとに示範して具体化するとともに、包丁の安全な扱い方を押さえておきたい。</p>	<p>みそ汁の作り方について、与えられた視点に沿って見聞きし、分かったことを記録している。</p> <p>《関》【家族ふれ合い便 7 : 観察欄】</p>	<p>みそ汁の作り方について、与えられた視点に沿って見聞きし、分かったことや気付いたことを記録している。</p>
	2. 家族ふれ合い便 7 の観察欄をもとに、「わが家のみそ汁」の作り方について調べたことを発表する。	18			
追究する	3. おいしいみそ汁の作り方について、大切なことをまとめる。	15	<p>発表の中で、共通性のあることは自分たちの作り方に取り入れていくようにする。</p> <p>共通性はないが、子どもたちの関心を集め、実行可能な工夫については取り入れて試してみるように促す。</p>	<p>自分の家のみそ汁作りや友達の発表を参考に、おいしいみそ汁について自分なりに考えている。</p> <p>《創》【家族ふれ合い便 7 : 観察欄、話し合いの様子】</p>	<p>自分の家のみそ汁作りや友達の発表を参考に、おいしいみそ汁について自分なりに考えたことを提案している。</p>
まとめる	4. みそ汁を作る手順を確認する。	10	<p>おいしいみそ汁の作り方についてまとめた大切なことをもとに、手順を整理し、ふれ合い便に書いてまとめるさせる。</p>		

学習指導案

題材名		家族のために作って楽しく、作っておいしく(18/22時間)			
ねらい	ご飯とみそ汁の、2つの調理が同時にできあがるように実習計画を立てることができる。				
準備	教師	家族ふれ合い便 8 炊飯作業の流れ・ガスコンロの火加減を示した図			
	児童	家族ふれ合い便 6・7			
過程	学習活動	時間	支援及び留意点	評価項目と方法	
				B規準	A規準
追究する	1.本時のめあてをつかむ。 2.グループ毎に、米の分量と手順、みそ汁の材料・分量と手順について実習計画を立てる。	5 20	準備、作業、試食、後片付けなど全体を見通して、2つの調理が同時にできあがるように考えるよう促す。炊飯については実習によって時間的な流れがつかめているので、それに合わせるように促す。 ご飯とみそ汁の作り方についてまとめた家族ふれ合い便 6・7を参考にさせて、計画に取り入れられるようにする。	ご飯とみそ汁の2つの調理が効率的にできるような工夫を考えている。	ご飯とみそ汁の2つの調理が効率的にできるように、見通しを持って分量、手順、分担を工夫している。
	3.準備、作業、分担、試食、片付けなど実習計画全体の確認をする。	15	全体で、安全に気を付けることや、協力して能率よく仕事を行うように確認する。グループでの作業の確認時には、ご飯とみそ汁の作り方を並行して言うようにし、相互の時間的な関連性を意識させたい。		
まとめる	4.家族ふれ合い便 8に、この計画で実習に臨む気持ちや意気込みを書く。	5	盛り付け方について、家庭の様子や給食時の様子を思い出させ、日本の伝統的な盛り付け方や配膳の基本に気付くようにする。 実習計画を家族に見せて、材料をそろえることへの協力をお願いするとともに、励ましの言葉やアドバイスを記入してもらうように伝える。	実習への不安感や緊張感、期待感を自分なりに表している。	実習への緊張感や期待感のみならず、観察して分かったことの生かし方に触れている。
				《創》【話し合いの様子】	
				《関》【家族ふれ合い便 8 : 自分の気持ち欄】	

学習指導案

題材名		家族のために作って楽しく、作っておいしく(19・20/22時間)					
ねらい	実習計画に沿って、班で協力して能率よく調理ができる。						
準備	教師	にぼし 家族ふれ合い便 9 炊飯作業・みそ汁の作り方を示した図 ストップウォッチ					
	児童	家族ふれ合い便 8 米80g <sup>ア</sup> みそ15g <sup>ア</sup> みそ汁の材料 エプロン 三角巾 ふきん					
過程	学習活動	時間	支援及び留意点	評価項目と方法			
				B 規準	A 規準		
つかむ	1. 本時のめあてをつかむ。	5	めあてを伝え、包丁やガスコンロの使い方、実習台の整理など安全面についての注意を促す。				
	2. 作業の流れを確認する。	5	グループ毎に、実習計画に記入した用具、仕事の手順と分担について読み合わせをさせる。				
追究する	3. ご飯とみそ汁の調理実習を行う。	70	米の計量、洗米、水加減と浸水までは、できるだけ休み時間を利用してやっておくようにする。 炊飯に関しては、前回の炊飯実験で重量で計測したことと、ガスコンロで火加減を調節しながら行ったことが生かせるようにする。 作業の手順については、実習計画を見て、常にグループで話し合い、できるだけ自主的に活動できるように促す。特に、2つの調理のでき上がりを意識し、なるべく同時になるよう注意を促したい。 配膳の仕方やマナーに気を付けさせ、楽しい雰囲気です試食ができるようにする。	班で協力して能率的にご飯とみそ汁を作ることができる。  《技》【実習】 安全や衛生に気を付けながら調理や後片付けに取り組んでいる。	計画に沿って、班で協力して能率的にご飯とみそ汁を作ることができる。  安全や衛生に気を付けながら、進んで調理や後片付けに取り組んでいる。		
	4. 試食する。		食器や用具を洗剤できれいに洗い、ふきんで水気をよくとってから元の場所に戻すようにさせる。 ゴミの分別に気を付けさせながら、ゴミの処理を行わせる。			8のチェックをもとに、自分の頑張りや友達との協力について書いている。	8のチェックをもとに、自分の頑張りや友達との協力、食事会への抱負を書いている。
	5. 後片付けをする。		9には、実習の感想とともに、これから計画する「家族との楽しい食事会」への抱負についても記入するように呼びかける。				
まとめ	6. 実習を振り返り、家族ふれ合い便 8の自己評価をチェックし、9の自分の気持ち欄に感想を書く。	10					



学習指導案

題材名 家族のために作って楽しく、作っておいしく(22/22時間)					
ねらい	これまでの学習を振り返り、家族の一員として生活していこうとする意欲を高めることができる。				
準備	教師	家族ふれ合い便 12			
	児童	(家族ふれ合い便ファイル) 家族ふれ合い便 1～11			
過程	学習活動	時間	支援及び留意点	評価項目と方法	
				B規準	A規準
つかむ	1. 本時のめあてをつかむ。	3	<p>家庭での実践の概要と実践後の感想、家族からのコメントを発表させる。</p> <p>友達の報告を聞いて、友達の頑張りや家族からのコメントで心に残ったことを家族ふれ合い便12に記入するようにする。</p>	<p>友達の報告を聞き、心に残ったことをいくつか記入している。</p> <p>《関》【家族ふれ合い便 12 : ワーク欄、聞いている様子】</p>	<p>友達の報告に関心を持ち、心に残ったことをいくつかも記入している。</p>
	2. 家族ふれ合い便 11をもとに、家族との楽しい食事会の実践報告をする。	17			
追究する	3. これまでの学習を振り返り、家族のために自分にできることをするということについて考える。	15	<p>食事会の実践報告を聞くことによって、自分たちが自分の持っている知識や技能を工夫して生活に生かすことができることや、それによって家族に役立っていることをしっかり意識させたい。</p> <p>ファイルに蓄積してきた家族ふれ合い便 1～11を読み返させ、家族が自分を励ましてくれたり、実践したことを認め喜んでくれたこと、今後の実践に期待してくれていることを確認させる。</p>	<p>家族のためにできることを継続した</p>	<p>家族のためにできることを、工夫を加えて継続したり、見つけて実行しようとする意欲を持っている。</p>
	4. 『家族ふれ合い便』で家の人と言葉のやり取りをしてきたことについて考える。				
まとめる	5. 家族のために、これからも続けたいことや新たにチャレンジしたいことを考え、家族ふれ合い便12にまとめる。	10	<p>自分の行動が、家族に役立つとともに家族のふれ合いを深めることに結びついていることから、ただ受け身でいるのではなく、家族の一員として行動していけるように促す。</p> <p>今後の家庭での実践目標を立てることで、継続化を図り、学習のまとめとする。</p>	<p>家族のためにできることを継続した</p>	<p>家族のためにできることを、工夫を加えて継続したり、見つけて実行しようとする意欲を持っている。</p>
				《関》【家族ふれ合い便 12 : 自分の気持ち欄】	